

川西市子ども・子育て会議 ご提案集約シート

○基本理念について

項目	内容
基本理念	阪神地区の小中学生を対象にしたアンケートで、大人になっても今の町に住みたいかという問いに、ハイと答えたのは、近隣の宝塚市・伊丹市・西宮市の子どもたちは、8割以上だったが、川西市の子どもたちは、4割程度にとどまったと聞いたことがある。住みたい地域、住みたい市にしてこそ、夢も広がるはず。市の懸命な取り組みを、一つでも多く、実行実現していくために、協力したい。
基本理念	公立保育所としては、今ある環境や子育てのノウハウが地域の子育てにいかされることが、大きな課題であり役目と感じている。子育て支援の地域の拠点として公立保育所の機能がより生かされて行くような体制づくりや環境整備を計画の中に反映して欲しい。
基本理念	「子どもの最善の利益」が最も基本となることであること、「一人一人の子どもの育ちを等しく保障する」ということを第一の理念に掲げてほしいと思います。
基本理念	川西市に若い子育て世帯を積極的に呼び込むためには、保育園や幼稚園をどのようにしていくかという議論に加えて、広くどのようなことをしていかなければならないかという事についての議論も必要だと思います。

○区域の設定について

項目	内容
区域の設定	教育・保育地域確定を中学校区とすること
区域の設定	アンケート調査に加え、保育所・幼稚園等への聞き取り調査も必要と考える。特に、アンケート調査では回答のない家庭、子育て支援が必要とされる家庭の実態把握のためには、現場の生の声を聞くしかない。踏み込んだ内容の聞き取りシートで、現実を把握し、現実に即した設定を。
区域の設定	区域指定をしていくことが求められているが、現在から推定できる中で目標値を設定し、その目標が達成できた後、需要が減ってきた場合、保育所の数が減らされていくことにはならないか？（公立保育所の閉所という事態が起きないか）
区域の設定	市が、区域ごとに事業者を把握する仕組みづくりが必要と思われます。また、区域を小学校区に設定することが望ましいと思いますが、少なくとも中学校区までに設定するのがいいのではないかと思います。
区域の設定	教育・保育の提供区域と量の見込み、確保の内容と実施時期等、会の終わりの少しの説明でわかりにくい為、次回説明していただきたい。

○量の見込みについて

項目	内容
量の見込み	数値上の保育需要数を全国および近隣市(阪神間の各都市)の数値と比較し、修正を行うこと。
量の見込み	放課後児童対策の充実について、現在の放課後児童クラブの数字だけでない実態を調査する必要があるのではないのでしょうか？現在利用している保護者からの聞き取りなどがあればいいと思います。学童保育と全児童を対象とした事業の違いを明確にした提供体制の確保を考える必要があります。学童のニーズと子ども教室のニーズを混同しないようにしてください。